

環状電流が作る磁場

C が向きの定められた閉曲線、 I が C に沿って流れる電流であるとき、

$$\mathbf{B}(\mathbf{r}) = \frac{\mu_0 I}{4\pi} \nabla \Omega(C; \mathbf{r}) \quad (1)$$

は Biot-Savart 則と等価であることを示す。

証明：

P' を P の近くの点とし、 $\overrightarrow{PP'} = \delta \mathbf{r}$ とする。グラディエントの定義により、

$$\Omega(C, P') - \Omega(C, P) = \nabla \Omega(C, P) \cdot \delta \mathbf{r} + \mathcal{O}((\delta r)^2) \quad (2)$$

となる。 C' をループ C を $-\delta \mathbf{r}$ だけシフトさせたループであるとすると

$$\Omega(C', P) - \Omega(C, P) = \Omega(C, P') - \Omega(C, P) = \nabla \Omega(C, P) \cdot \delta \mathbf{r} + \mathcal{O}((\delta r)^2) \quad (3)$$

となる。ループ C, C' で作られる柱状領域の外向き表面（閉曲面）を S とする。また柱状領域の側面を \bar{S} とし、その法線は S の内側から外側を向くようにとる。このとき

$$\Omega(S, P) = \Omega(C, P) - \Omega(C, P') + \Omega(\bar{S}, P) \quad (4)$$

が成り立つ。一方 P は外向き閉曲面 S の外側にあるので、 $\Omega(S, P) = 0$ 。よって

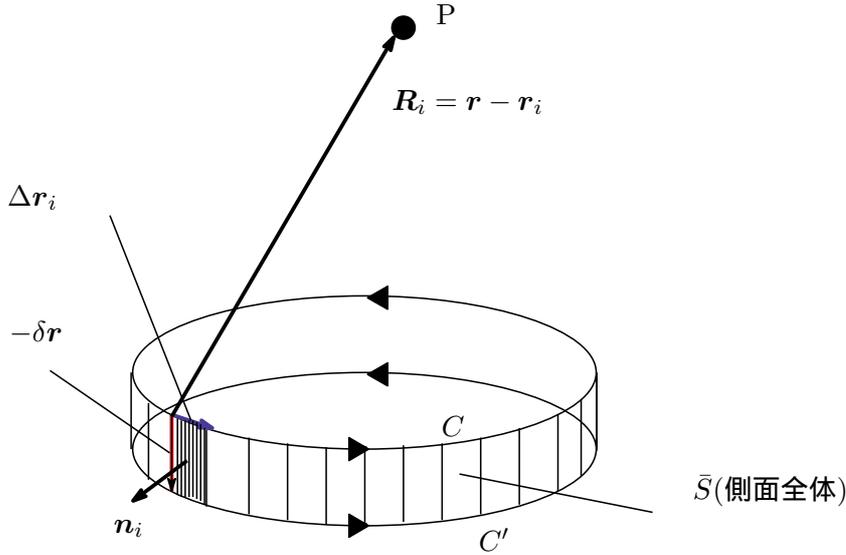
$$\Omega(C, P') - \Omega(C, P) = \Omega(\bar{S}, P) \quad (5)$$

が成り立つ。この式の左辺は求めたい量である。一方、右辺は以下に示すように式変形することができる。 $\Omega(\bar{S}, P)$ の計算

ループ C の向きに沿って、分割点 $P_1, P_2 \dots$ が並んでいるものとする。 i 番目の分割点 P_i の位置ベクトルを \mathbf{r}_i とし、線素ベクトル $\Delta \mathbf{r}_i = \mathbf{r}_{i+1} - \mathbf{r}_i$ と定義する。 P_i を起点とし、 $\Delta \mathbf{r}_i$ と $\delta \mathbf{r}$ で張られる平行四辺形を ΔS_i とすると、

$$\Omega(\bar{S}, P) = \lim_{\Delta r_i \rightarrow 0} \sum_i \Omega(\Delta S_i, P) \quad (6)$$

P から見た微小平面 ΔS_i の立体角は、



- ΔS_i の代表点 P_i から P までの相対的位置ベクトル $\mathbf{R}_i = \mathbf{r} - \mathbf{r}_i$
- ΔS_i の面積 (これも ΔS_i と表す)
- ΔS_i の法線ベクトル \mathbf{n}_i

を用いて

$$\Omega(\Delta S_i, P) = -\frac{\Delta S_i \mathbf{n}_i \cdot \mathbf{R}_i}{R_i^3} \quad (7)$$

と表される ($R_i = |\mathbf{R}_i|$)。さてベクトルの外積の性質から、

$$\Delta S_i = |\delta \mathbf{r} \times \Delta \mathbf{r}_i|$$

が成り立ち、かつ \mathbf{n}_i と $\delta \mathbf{r} \times \Delta \mathbf{r}_i$ は同じ向きであるので、

$$\Delta S_i \mathbf{n}_i = \delta \mathbf{r} \times \Delta \mathbf{r}_i \quad (8)$$

が成り立つ。これを用いると (7) は

$$\Omega(\Delta S_i, P) = -\frac{(\delta \mathbf{r} \times \Delta \mathbf{r}_i) \cdot \mathbf{R}_i}{R_i^3} \quad (9)$$

ベクトル代数の公式 $(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot \mathbf{C} = -\mathbf{C} \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = -(\mathbf{C} \times \mathbf{A}) \cdot \mathbf{B}$ を用いると (9) はさらに

$$\Omega(\Delta S_i, P) = \left(\frac{\Delta \mathbf{r}_i \times \mathbf{R}_i}{R_i^3} \right) \cdot \delta \mathbf{r} \quad (10)$$

と表すことができる。(10) を (7) に代入し (3) と比較すると、

$$\nabla \Omega(C, P) = \lim_{\Delta r_i \rightarrow 0} \sum_i \frac{\Delta \mathbf{r}_i \times \mathbf{R}_i}{R_i^3} = \oint_C \frac{d\mathbf{r}' \times (\mathbf{r} - \mathbf{r}')}{|\mathbf{r} - \mathbf{r}'|^3} \quad (11)$$

となる。この両辺に $\mu_0 I / (4\pi)$ をかけると、右辺は Biot-Savart 則に従って環状電流が作る磁場 (1) と等価であることがわかる。